

飼料米(粳米)活用による若狭牛づくり(H23~25年度)

実施主体：畜産試験場

担 当：肉牛バイテク研究 G

1. 事業概要

県では、稲作農家と畜産農家の間で契約して新規需要米である飼料米の生産拡大を推進している。そこで、飼料米の活用を推進するため、調製・保管が容易な粳米を濃厚飼料(とうもろこし等の穀物)の最大6割代替え給与する若狭牛肥育技術を検討する。また、粳米給与時の反すう行動や生理的な影響(血液や健康状態への影響)を調査し、粳米給与設計技術のための基礎データを蓄積する。その結果、自給率の向上や生産者の顔が見え安心できる若狭牛の生産を推進する。

2. 研究項目、内容、年度計画等

研究項目	研究内容	実施年度		
		平成23年度	平成24年度	平成25年度
①飼料米(粳米)飼料給与技術の検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>粳米飼料の給与割合の違いによる若狭牛の採食性(食べ具合や食べる量)や発育性、出荷牛の肉量、肉質を比較検討</li> <li>肥育牛の粳米の嗜好性(好んで食べるかどうか)、採食や反すうの行動、第1胃等への影響調査</li> <li>粳米給与による尿石症(ぼうこうなどに石ができる病気)などの疾病への対処方法の検討</li> </ul>	若狭牛10頭肥 ・試験区粳米 ・対照区粳米	育試験 6割給与 3割給与 (4頭出荷)	(6頭出荷)
②牛肉の旨味成分向上技術の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>粳米給与による生産牛肉の旨味成分や食味の向上効果の検証(試食試験、旨味分量ややわらかさ・歯ごたえ等の比較)</li> </ul>		←牛肉試	料分析→

3. 期待される効果

- ・若狭牛(800頭)へ粳米を給与することで、飼料代のコスト低減が図られ、若狭牛肥育経営の基盤強化が図られる。
- ・粳米を用いた若狭牛の肥育技術の確立
- ・粳すり作業の削減、保存性の向上、流通の簡略化
- ・若狭牛の県内産飼料自給率の向上と消費者が安心な若狭牛の生産

4. 予算額 2,110千円(財源:財産収入 3,240千円、一般 △1,130千円)